

2 コラム RAMPWAY  
泉 麻人

特集 伝える工夫 リスクコミュニケーション

5 平時の戦略なくして  
有事の対策なし  
レイザー株式会社 代表取締役/  
一般社団法人日本リスクコミュニケーション協会 代表理事  
大杉春子

8 ネット炎上  
その火種と火消  
国際大学 グローバルコミュニケーションセンター 准教授  
山口真一

12 ぶら〜り首都高めぐりの旅  
神奈川6号川崎線の巻

13 CHALLENGE  
日本橋川に青空を

14 Taste of the Season  
森下典子

16 首都高HEADLINE

18 BUSINESS ESSAY  
誤解を生まないコミュニケーション  
明治大学文学部教授  
齋藤 孝

20 つくる人まもる人  
首都高技術株式会社  
亀岡 誠

22 高速百景 中野正貴

contents produced by  
Metropolitan Expressway Company Limited



illustration by Takao Nakagawa

column | RAMPWAY 43

首都高名所案内  
向島  
リバーウォークと  
ミズマチ散歩

コラムニスト  
泉 麻人

以前、首都高6号線の向島あたりのことを書いたことがあったけれど、当時はスカイツリーができてまだ間もない頃だった。完成から7、8年経って、あの塔楼もすっかり下町景色のなかに定着したが、近頃またスカイツリーのたもとに新しいスポットが誕生した。東武線（スカイツリーライン）の浅草側の高架下にできた「東京ミズマチ」である。ミズマチの名は、先輩のソラ

マチに対するものだろうが、実際にすぐ傍らには北十間川の水辺が続いている。そして、このミズマチへのアプローチとして「すみだリバーウォーク」と名づけられた遊歩道が隅田川を渡る東武線鉄橋の脇に整備された。松屋（エキミセ）のビル2階のホームを出た東武電車がまもなく渡る、この鉄橋は思い出深い。中学時代からの古いつきあいになる友人が、鉄橋のす

ぐ近くのマンションに住んでいたことがあって、上階の通路から松屋のビルに出入りする東武電車が見えた。そうか、あの鉄橋の脇の遊歩道：ならばぜひ渡ってみたい。

隅田公園の一角の出入り口から「リ

バーウォーク」に進入した。簡素な金網で仕切られただけの素朴な人道橋、川景色を眺めるのもいいが、すぐ上に目を向けると古い鉄橋の裏側が見えるのがおもしろい。これは最近になって表記したのだろうが（since 1930）と竣工年が刻まれている。1930年は昭和5年、当初は現在のとうきょうスカイツリー駅の所業平橋。ここを浅草と称していた時期も）から出ていた東武線は松屋ビルの建設に合わせて、隅田川西岸のいまの場所まで延伸された（駅と松屋の開業は昭和6年）。

隅田川を渡って首都高の下をくぐると、墨堤通りの向こう側からミズマチのショッピングモールが始まる。左手は牛嶋神社の境内へ続く緑地だが、ひと頃まで裏ぶれた感じだったこの辺の景観も、随分あかぬけた雰囲気になった。右手の東武線高架下のモール、ピザやスイーツのメニューを掲げたカフェや地ビールをウリにしたレストラ

ン、和風の甘味処：目につくのは食の店だ。スマートなコインランドリーやコンパクトなホテルらしき物件もあったが、コロナ禍が鎮まってきたら、もともとにぎやかな街になっていくだろう。

ミズマチの途中、三ツ目通りに架かる橋は源森橋と付いているが、下を流れる北十間川の旧称が源森川である。源兵衛さんの森、なんてのが大もとらしいけれど、この源森橋を本所吾妻橋側に渡った先にある古い2階建店舗はこの辺の散歩をするたびに目にとまる。

（工業株式会社）と看板にあるが、その前に付いた（汽罐と煙突）のキャッチフレーズがいい。汽罐と煙突——昔の純文学のタイトルみたいな趣きがあるけれど、煙突はともかく、汽罐はボイラーを意味する日本語。ミズマチもいいが、こういう歴史ある街の看板も見逃せない。

いずみ あさと／1956年、東京都新宿区生まれ。慶應義塾大学商学部卒業。79年、東京ニュース通信社に入社。「週刊TVガイド」などの編集者を経て、フリーのコラムニスト。近著に『夏の迷い子』（中央公論新社）がある。